



# 慶應言語学 コロキウム

慶應義塾大学言語文化研究所  
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

## 集合、ラベル、包含関係 に基づくインターフェイス での解釈メカニズム

講師：林 慎将 氏(九州大学大学院人文科学研究院)

司会・コメンテーター：内堀 朝子 氏(東京大学)

日時：2021年7月10日(土) 10:00-16:00

※オンライン開催(Zoom 使用)、受講料無料

Chomsky (2013, 2015) ではラベル (それまでの投射) について以下の二点が大きな特徴として挙げられます。1. ラベル付けアルゴリズムを言語の第三要因に従う形で定式化したこと、2. 句ではなく、語彙要素や一致素性がラベルとなること。今回は、Chomsky (2013, 2015) の枠組みを (若干の修正を加えつつ) 概観する形で 1 を確認した後、2 の帰結、特にインターフェイスで構造がどのように解釈されるのかを議論していきます。

統語論における要素間の関係は C 統御に基づき行われますが、インターフェイスでは、併合が作る集合とその要素の包含関係が解釈に用いられると考えます。集合はラベルとなる語彙要素及び素性によって特徴づけられるため、集合の中の要素はそのラベルに基づく解釈を受けることとなります。具体的には、述語一項の選択関係を述語をラベルとする集合の包含関係に基づき捉えることで、黒田 (1999) の主要部内在型関係節における長距離選択分析を定式化し、黒田 (1976-7) の関連性条件及び等位構造と付加詞からの例外的抜き出しについて統一的な説明を与えることを目指します。また、一致素性がラベルになることから、一致現象を考え直します。主要部一指定部一致をラベル付けの最小探査から導き出した Epstein, Kitahara, and Seely (2017, 2018, 2020) の提案に加え、一致素性をラベルとする集合に含まれる要素がインターフェイスにおいて二次的な一致を受けると考えます。

(1)  $\{ \langle F, F \rangle \{ z Z[uF], \dots \} \{ y Y[F], \dots X[uF] \dots \} \}$

(1) において、Z は  $\langle F, F \rangle$  ラベルの付与に携わり、集合を特徴づける役割を果たすため、その集合に基づく厳しい解釈が与えられる一方、X は  $\langle F, F \rangle$  ラベルを持つ集合に含まれるため Y と一致しますが、ラベルを与える役割は果たしておらず、比較的自由的な解釈を示すと主張します。この考えの C-I/SM インターフェイスそれぞれでの帰結を、英語の多重 *wh* 疑問文、日英語の *wh* 疑問文や英語やバンツ語を含む言語の一致現象、格付与等を見ていくことで議論していきます。

[参加申込] [genbu@icl.keio.ac.jp](mailto:genbu@icl.keio.ac.jp) 申込締切: 7月8日(木)

- ・氏名、所属、職位(学部・専攻・学年)を明記の上、メールでお申込ください。
- ・申込者へは、事務局より別途オンライン開催情報を返信いたします。